

受 験 番 号

令和七年度 中学校入学試験問題

国 語 (二次)

(時間 四十五分)

〔注意事項〕

- 一、試験開始の合図まで中を開いて見 はいけません。
- 二、受験番号(算用数字)を問題用紙・解答用紙のきめられた欄(らん)にかならず記入しなさい。
- 三、問題がぬけている、印刷がはつきりしないなどの場合は申し出なさい。
- 四、解答はかならず解答用紙のきめられた箇所(かしょ)に記入しなさい。
- 五、何か用事のできた時には「はい」と言って手をあげなさい。ただし問題の内容についての質問をしてはいけません。

●句読点、記号は一字と数えること。

一

①～⑩の——のカタカナは漢字に、漢字はひらがなに直しなさい。
(送りがなのある場合はそれも書くこと)

- ① この問題はヤサシイ。
- ② 服を作るため布をタツ。
- ③ タテ書きの便せんを用意する。
- ④ 災害にソナエル。
- ⑤ 横綱がドヒヨウ入りする。
- ⑥ 天皇へイカに札をする。
- ⑦ コクモツを生産する。
- ⑧ 平素より行いに気を付ける。
- ⑨ 授業用のプリントを刷る。
- ⑩ 犬が戸外を元気に走る。

二 次の問いに答えなさい。

問一 日本には外国名を漢字で表記する習慣があります。例えばイタリ
アを漢字で表記すると「伊太利亜」となり、漢字一字では「伊」と
表します。(1)(2)の問いに答えなさい。

(1) 次の①、②の国を表す漢字を一字で答えなさい。

- ① フランス ② イギリス

(2) 次の①～③を漢字で表記したものとして適当なものをそれぞれ
次より選び、記号で答えなさい。

- | | | |
|-------|-------|-------|
| ① インド | ② ドイツ | ③ トルコ |
| ア 独逸 | イ 和蘭陀 | ウ 加奈陀 |
| エ 印度 | | |
| オ 葡萄牙 | カ 土耳其 | |

問二 ①～⑤の文の□に適当な漢数字をあてはめ、例文にふさわしい
三字熟語を完成させなさい。

- ① エース選手がチームに加われば、□人力だ。
- ② この柔道選手の十□番は背負い投げだ。
- ③ 惜しくも決勝で負けたが相手との実力の差は紙□重だった。
- ④ 試合終了間際に値□金のゴールを決め、見事優勝を果たした。
- ⑤ 彼は投手と打者との□刀流で活躍する野球選手だ。

〔三〕 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

主人公の信太郎は色覚障がいのあることを自覚している。五年生になり、新しく担任の先生になった平林先生は父親が色覚障がいだったこともあり、信太郎のよき理解者である。

掃除の時間のことだった。ぼくが担当の外掃除に行くと、平林先生も来ていた。この季節は草がのび始めるから、今のうちに根っこごとぬいておくのがかんじんだと、平林先生は長い柄のついた草かきを持ってきて、勢いよく地面をほり返す。

ぼくたちは小さな三角形の草かきで、地面をカリカリとつつきながら、取った草をバケツの中に入れていく。ぼくはちまちまとしたその作業がけっこう好きだった。

作業の途中で、友行がカマキリのタマゴを発見した。①アメみたいになくなったタマゴが一つ、ぽつんと残っていた。

「へえー、よく見つけたなあ」

「もう季節外れだよ。他のはとくにカマキリになってるんじゃないのか」

「そうだよ。今ごろタマゴのままってことは、生きてないよ」

みんなが口々に言うのと、めずらしく言い返しめせず、友行はさみしうに口を結んでいた。

「とりあえず教室に持っていてもいいですよ」

平林先生が声をかけた。

「ふか、するかもしれません。見られるといいですね。カマキリの赤ちゃん」

「本当？ 本当に見られる？」

②友行の顔がほころんだ。

「ええ、運がよければですけどね」

先生の言葉に、友行はタマゴのついた枝をしんちように折っていた。

「生まれるといいね」

③郁人が友行のとなりにならんではいる。

「うん。そしたら教室でカマキリを飼おう。一人前になるまでおれがめんどろみるからな」

「手伝うよ」

「おう」

もう掃除どころではなくなつて、友行はカマキリのタマゴを宝物のように大事に教室に持ち帰っていった。

そのあと、友行は先生に相談して理科室に飼育箱を借りに行った。ロッカーの上に置き場所を確保すると、カマキリのタマゴを中に入れて、心配そうにながめている。みんなも代わる代わるのぞいていた。

友行ときたら、

「がんばれ。出てこい。出てこい。待ってるぞ」

大まじめにカマキリのタマゴに話しかけていた。

数日たつて、学校に行くと、飼育箱を取りかこんで、みんながわあわあ

とさわいでいた。カマキリの子どもが生まれたのだ。のぞいて見ると、小さなカマキリが、③と動き回っている。

友行は草を入れて、水が飲めるようにしめらせた綿も入れた。エサはアブラムシらしくて、郁人や直樹がつき合っているしよにさがしに行っていた。郁人は「④」と、毎日のようにアブラムシをとってきた。友行に席を替わってもらったとき、二人はそんなことを話していたし、一輪車の練習を手伝ってもらったこともある。友行に借りを返すためだなんて言いながら、郁人は楽しそうだ。

そのうち、カマキリの赤ちゃんは脱皮した。友行はうれしさをかくしきれない様子で草を取り換えている。飼育箱の中で順調に育っているようだ。でも、ほとんどいつも草の間にもぐりこんでいたから、みんなは不満そうだった。

「見たいのにさあ、⑤どこにいるかわかんないよ」

「保護色だね」

「別に草なんか入れる必要ないんじゃない？ カマキリは草を食べないでしょ」

さつきが言うと、

「いやいや、ねるとこだよ。ねるとこ」

友行がいばって言い返す。

みんなは草のすきまに入りこんだカマキリを見つけれないと言ったけれど、ぼくはすぐに見つけることができた。

「ほら、ここ。あっ、ここにもいるよ」

ぼくが指さすと、カマキリが⑥と動きだす。

「信太郎、すげー」

「よくこんな見分けられるよな」

みんなから、こんなことでおどろかれるなんて意外だった。

「なんでわかるんだよ。どれも同じみどり色なのに」

直樹が感心して、ぼくの顔をのぞいてきた。

「カマキリの体の色と草の色って同じじゃないのか」

郁人に聞かれて、

「うん。ぜんぜんちがうよ。草は日向で見るのちがって、飼育箱の中

だと、ちよつと暗い感じだし、ぱさはさしてるじゃないか。カマキリは生まれたてだから、⑦しているし、つやがあつて明るいんだ」

ぼくはこたえた。

「うー、お手上げだあ。くやしけど信太郎にはかなわないよ」

さつきからじいっと飼育箱をにらんでいた友行が、目をしばしばさせていた。

本当にぼくにしか見えないのか、自分でも不思議でたまらなかった。

他の人より見える色の数が少なくて、なやんでいたはずなのに、今日のぼくはそうじゃなかった。カマキリと草は同じ色じゃない。そのちがいをぼくの目は見分けることができる。

「ほう、⑧特殊能力ですな」

平林先生まで話に加わってきた。

「信太郎くんにはできないことですよ。こんな人に出会ったのはぼく

も初めてです。信太朗くんはふだんからものをよく見ているんでしょうね。だから、形や質感、色の濃淡や明るさのちがいがよくわかるようになったのでしょうか」

特殊能力。そんなほめ言葉は今まで聞いたことがなかった。ぼくの見ている世界も悪いことばかりじゃないんだ。平林先生の何気ない言葉がぼくの心を温かくした。

「それに、ほら、信太朗くんって、絵もじょうずよね」

さつきが後ろの掲示板を指さした。そこには、四月に描いた春の花だんの絵が貼ってあった。

「細かいところまでよく描けているよ。ねえ」

浩美にも言われて、くすぐったい気持ちになった。

作品に貼られた先生の評を読むと、「プリムラの葉っぱのちりちりとした感じやガーベラのつんとした花びらなど、細かい形をよく見えています」と書かれている。

「こういうところで修業を積んでいるから、カマキリだって見えるんじゃない?」

「納得!」

さつきの言葉に、友行が大きな声でこたえた。

「そうだよ。ぼくだって納得だ。」

⑩ ぼくは絵を描くことに劣等感をもっていて、なんとかして折り合いをつけようとしてきた。色ぬりが苦手だから、鉛筆のスケッチをできるだ

けていいに描くようにして、その上にうすい絵の具でさらりと色をつ

ける。そのやり方は正解だったのかな。

週末は雨だと天気予報で言っていた。土曜日の夜おそくまでふり続いた雨があがって、日曜日は晴れた。カーテンのすきまから、太陽の光が差しこんでいる。父さんも母さんも仕事があるらしく、朝早くから、パタパタと支度をしていた。

よし、まずはサブだ。*

ぼくは飛び起きて、和美酒おばちゃんに向かった。

このところ雨が続いていいたから、すっかりたいくつしていたらしく、ぼくの顔を見るなり、サブはしつぽをぶんぶんとふった。

「散歩に行くよ」

リードをつけようとすると、うれしすぎてじっとしていないサブ。こんなやんちゃなサブはめずらしくて、ぼくまで気がはやる。

待て待て。じっとしてて。

「信ちゃんのこと、待ちくたびれていたのよ」

おばちゃんに言われて、ぼくはますますはりきった。

「行ってきまーす!」

ぼくらは走った。晴れた空はまぶしくて、朝の町は雨で洗われたようにみずみずしい。澄んだ空気を思いきり吸いこむと、特別な何かに出会える予感がした。

はねるように水たまりを飛びこえるサブ。ツーンとリードが引っぱられた。サブが勢いよく走りだして、ぼくはあせった。あやうくリードを

離^{はな}しそうになって、ハイテンションのサブをたしなめた。

「ダメだよ。ぼくについてきて」

そうは言ったけれど、サブにつられてぼくも走った。サブは走る。走る。本当にうれしくってたまらないんだ。公園の入り口まで来ると、機関車に太陽の光が当たって、チカチカと光っていた。その上を鳥が群れになって飛んでいく。

公園の中に入ると、サブはようやく落ち着いた。

池のところまでやってきたとき、ぼくは思わず目を見張った。生まれてたての若葉。枝や葉がゆれるたびに、お日さまが透^すけて、まぶしい。葉の先から雨つぶが滴^{したた}る。キラリと光って落ちる。

ぼくは立ち止まり、言葉を失って、ただドキドキする胸をおさえた。そのとき、ぼくには見えなかった。木々の一本一本、葉っぱの一枚一枚。一つとして同じものじゃなかった。ケヤキもシダレヤナギも、クチナシもムクゲも、思い思いのかたちに葉をのばしている。アジサイの花も、すくつと顔を上げていた。

こんな景色を、ぼくは今までに見たことがなかったのだろうか。もちろん、ここには何度も来ていたはずなのに、池に映った空も、水面^{みなも}を渡る風も、初めて見たような気がした。まるで雨上がりの魔法じゃないか。

平林先生に言われた特殊能力という言葉が胸にうかんだ。

信太郎、すげー。よくこんなの見分けられるよな。

くやしいけど信太郎にはかなわないよ。

教室でみんなに言われた言葉がまだ耳に残っていて、ぼくの胸の中で

おどっているみたいだ。

世界が変わった？

いや、そうじゃない。もっと簡単なことだ。世界はこんなにも美しくかったのに、今までのぼくが知らずにいただけだ。見ようとさえしなかったんだ。目の前に広がる、やさしくてやわらかな世界。ぼくが目を開けばいつでも見ることができたはずなのに……。

本当にあるのかもしれない。神さまがプレゼントしてくれた、ぼくだけの色が。

⑪ ぼくの中で何かが目を覚ました瞬間^{しゅんかん}だった。

『ぼくの色、見つけた！』 志津榮子^{しずえひこ}（講談社）

*サブ：和美おばちゃんが飼っているシベリアンハスキー

問一 —— ①とは何色ですか。最も近い色を次より選び、記号で答えなさい。

ア 青色 イ 茶色 ウ 緑色 エ 黒色 オ 白色

問二 ― ②とありますが、この時の友行の気持ちとして最もよいものを次より選び、記号で答えなさい。

ア カマキリの卵を見つけて、さらに先生に教室に卵を持って行くことを認めてもらってうれしくなり、有頂天になった。

イ カマキリの卵を見つけたことで自分がカマキリの親のような気持ちになり、カマキリの赤ちゃんの誕生が楽しみになった。

ウ カマキリの卵を持って帰ることをみんなに責められて悲しんでいたが、先生だけは自分の味方をしてくれてうれしかった。

エ カマキリの卵を見つけてうれしい気持ちをみんなに知られるのが恥ずかしくて隠していたが、がまんできなかった。

オ カマキリの卵がもう生きていないとみんなに言われて残念に思ったが、先生の言葉を聞いて希望を持った。

問三 ③、⑥、⑦に当てはまる言葉の組み合わせとして最もよいものを次より選び、記号で答えなさい。

- | | | | | | | |
|---|---|--------|---|------|---|------|
| ア | ③ | ちよこちよこ | ⑥ | ぐるぐる | ⑦ | べたべた |
| イ | ③ | うじゃうじゃ | ⑥ | もぞもぞ | ⑦ | ぴちぴち |
| ウ | ③ | ごちゃごちゃ | ⑥ | ごそごそ | ⑦ | ごろごろ |
| エ | ③ | そろりそろり | ⑥ | すたすた | ⑦ | ぼそぼそ |
| オ | ③ | ぴよんぴよん | ⑥ | のそのそ | ⑦ | まるまる |

問四 ④に当てはまる発言として最もよいものを次より選び、記号で答えなさい。

ア ここで踵^{きびす}を返すんだ

イ ここで手の平を返すんだ

ウ ここで恩を仇^{あだ}で返すんだ

エ ここで武士の情けを返すんだ

オ ここで息を吹き返すんだ

問五 ― ⑤とありますが、そのようにみんなが言うのはなぜだと考えられますか。最もよいものを次より選び、記号で答えなさい。

ア 草の下に隠れてカマキリは表面に全然出てこないから。

イ カマキリの赤ちゃんが小さすぎて見ることができないから。

ウ カマキリの体の色が草の色と見分けがつかないから。

エ 友行がいつもお世話していて自由に飼育箱を見られないから。

オ カマキリが脱皮して体の形が変わってしまったから。

問六 ― ⑧とは、どのような能力ですか。「^レが見分けられる能力」につながるように本文中から二十字以内でぬき出しなさい。

問七 ― ⑨とは、どのような気持ちですか。最もよいものを次より選び、記号で答えなさい。

- ア ほめられて、照れくさい気持ち
- イ ばかにされて、腹立たしい気持ち
- ウ 注目されて、ほこらしい気持ち
- エ たたえられて、調子に乗る気持ち
- オ 説明されて、幸せな気持ち

問八 ― ⑩について、それを説明した次の文の Ⅰ、Ⅱ を文章中の言葉を使ってそれぞれ十五字以内で補いなさい。

絵を描くときに Ⅰ という悩みに折り合いをつけるために、色付けは簡単に行い、代わりに対象を Ⅱ ようにしてきた。

問九 ― ⑪の説明として最もよいものを次より選び、記号で答えなさい。

- ア 雨上がりの公園の美しい景色を見て、今までこの美しさを自分に教えてくれる人がいなかった事実にはショックを受けた。
- イ うれしそうに走るサブにつられて、自分もうれしい気持ちになったことで、世界の見え方が変わった。

ウ 雨上がりに見た景色は今まで見ていた景色とは違って美しく感じ、雨上がりの魔法の存在を目の当たりにした。

エ 周りの人から認められて、見える世界が変わり、ぼくだけの色で見える世界が実は美しいものであったと気がついた。

オ 公園で見た景色の美しさに感動して、今まで景色を見ようとしてこなかった過去の自分を否定しようと心に決めた。

四 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

*
① リカオンはとても社会性の高い動物で、一対のオスとメスをリーダーとするおおよそ10〜15頭からなる「パック」と呼ばれる群れで暮らしています。みんなで協力しながら子育てや狩りをし、群れの中に病気や怪我がしたメンバーがいても助け合いながら生きていきます。^② 弱肉強食の世界において、仲間意識がもつとも強い「仲良し」の種かもしれません。

彼らは「最強ハンター」と呼ばれるほど、狩りが上手なことで知られていて、その成功率はおおよそ80%にもなると言われています。コミュニケーションをとりながら協力して狩りをするリカオンは、持久戦勝負で獲物が力尽きるまで執拗に追いかけます。インパラなどの中型サイズの草食動物を主な獲物にしていますが、ヌーやクドウ、シマウマなどの自分たちよりもはるかに大きな獲物を仕留めることもあります。リカオンに追いかけられ水の中に逃げ込んだクドウの子供と、岸で粘り強く待ち続けるリカオンとの実に1時間半にもわたる攻防戦を目撃したこともあります。

リカオンの大きな特徴は、その非常に大きな行動圏です。南アフリカ・リンポポ州のとある保護区で行われた研究によると、あるリカオンのパックの行動圏はおおよそ340km²でした。これは最大おおよそ9km²が行動圏のジャッカルや、最大おおよそ209km²が行動圏のライオンなど、他の肉食動物と比較してもかなり大きなエリアです。

なぜ、ここまで広大なエリアを移動する必要があるのでしょうか？

リカオンはより体の大きいライオンやハイエナに獲物を取られてしまったり、殺されてしまったりすることもよくあります。特にライオンは、大人のリカオンの15%、子供のリカオンの69%の死因となっています。そのためライオンの鳴き声や匂いなどを頼りに、リカオンは彼らとの接触を避けながら、広大なエリアを移動することで、生き延びているのです。

ハイエナやライオンに比べると知名度の低いリカオンですが、実はもつとも絶滅の危機に瀕している肉食動物のうちの一つです。約100年前にはおおよそ50万頭がアフリカ大陸の39カ国に生息していたとされるリカオンですが、これまでに25カ国で絶滅し、現在の数はおおよそ6600頭とされています。

③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿ ㏀ ㏁ ㏂ ㏃ ㏄ ㏅ ㏆ ㏇ ㏈ ㏉ ㏊ ㏋ ㏌ ㏍ ㏎ ㏏ ㏐ ㏑ ㏒ ㏓ ㏔ ㏕ ㏖ ㏗ ㏘ ㏙ ㏚ ㏛ ㏜ ㏝ ㏞ ㏟ ㏠ ㏡ ㏢ ㏣ ㏤ ㏥ ㏦ ㏧ ㏨ ㏩ ㏪ ㏫ ㏬ ㏭ ㏮ ㏯ ㏰ ㏱ ㏲ ㏳ ㏴ ㏵ ㏶ ㏷ ㏸ ㏹ ㏺ ㏻ ㏼ ㏽ ㏾ ㏿ 㐀 㐁 㐂 㐃 㐄 㐅 㐆 㐇 㐈 㐉 㐊 㐋 㐌 㐍 㐎 㐏 㐐 㐑 㐒 㐓 㐔 㐕 㐖 㐗 㐘 㐙 㐚 㐛 㐜 㐝 㐞 㐟 㐠 㐡 㐢 㐣 㐤 㐥 㐦 㐧 㐨 㐩 㐪 㐫 㐬 㐭 㐮 㐯 㐰 㐱 㐲 㐳 㐴 㐵 㐶 㐷 㐸 㐹 㐺 㐻 㐼 㐽 㐾 㐿 㑀 㑁 㑂 㑃 㑄 㑅 㑆 㑇 㑈 㑉 㑊 㑋 㑌 㑍 㑎 㑏 㑐 㑑 㑒 㑓 㑔 㑕 㑖 㑗 㑘 㑙 㑚 㑛 㑜 㑝 㑞 㑟 㑠 㑡 㑢 㑣 㑤 㑥 㑦 㑧 㑨 㑩 㑪 㑫 㑬 㑭 㑮 㑯 㑰 㑱 㑲 㑳 㑴 㑵 㑶 㑷 㑸 㑹 㑺 㑻 㑼 㑽 㑾 㑿 㒀 㒁 㒂 㒃 㒄 㒅 㒆 㒇 㒈 㒉 㒊 㒋 㒌 㒍 㒎 㒏 㒐 㒑 㒒 㒓 㒔 㒕 㒖 㒗 㒘 㒙 㒚 㒛 㒜 㒝 㒞 㒟 㒠 㒡 㒢 㒣 㒤 㒥 㒦 㒧 㒨 㒩 㒪 㒫 㒬 㒭 㒮 㒯 㒰 㒱 㒲 㒳 㒴 㒵 㒶 㒷 㒸 㒹 㒺 㒻 㒼 㒽 㒾 㒿 㓀 㓁 㓂 㓃 㓄 㓅 㓆 㓇 㓈 㓉 㓊 㓋 㓌 㓍 㓎 㓏 㓐 㓑 㓒 㓓 㓔 㓕 㓖 㓗 㓘 㓙 㓚 㓛 㓜 㓝 㓞 㓟 㓠 㓡 㓢 㓣 㓤 㓥 㓦 㓧 㓨 㓩 㓪 㓫 㓬 㓭 㓮 㓯 㓰 㓱 㓲 㓳 㓴 㓵 㓶 㓷 㓸 㓹 㓺 㓻 㓼 㓽 㓾 㓿 㔀 㔁 㔂 㔃 㔄 㔅 㔆 㔇 㔈 㔉 㔊 㔋 㔌 㔍 㔎 㔏 㔐 㔑 㔒 㔓 㔔 㔕 㔖 㔗 㔘 㔙 㔚 㔛 㔜 㔝 㔞 㔟 㔠 㔡 㔢 㔣 㔤 㔥 㔦 㔧 㔨 㔩 㔪 㔫 㔬 㔭 㔮 㔯 㔰 㔱 㔲 㔳 㔴 㔵 㔶 㔷 㔸 㔹 㔺 㔻 㔼 㔽 㔾 㔿 㕀 㕁 㕂 㕃 㕄 㕅 㕆 㕇 㕈 㕉 㕊 㕋 㕌 㕍 㕎 㕏 㕐 㕑 㕒 㕓 㕔 㕕 㕖 㕗 㕘 㕙 㕚 㕛 㕜 㕝 㕞 㕟 㕠 㕡 㕢 㕣 㕤 㕥 㕦 㕧 㕨 㕩 㕪 㕫 㕬 㕭 㕮 㕯 㕰 㕱 㕲 㕳 㕴 㕵 㕶 㕷 㕸 㕹 㕺 㕻 㕼 㕽 㕾 㕿 㖀 㖁 㖂 㖃 㖄 㖅 㖆 㖇 㖈 㖉 㖊 㖋 㖌 㖍 㖎 㖏 㖐 㖑 㖒 㖓 㖔 㖕 㖖 㖗 㖘 㖙 㖚 㖛 㖜 㖝 㖞 㖟 㖠 㖡 㖢 㖣 㖤 㖥 㖦 㖧 㖨 㖩 㖪 㖫 㖬 㖭 㖮 㖯 㖰 㖱 㖲 㖳 㖴 㖵 㖶 㖷 㖸 㖹 㖺 㖻 㖼 㖽 㖾 㖿 㗀 㗁 㗂 㗃 㗄 㗅 㗆 㗇 㗈 㗉 㗊 㗋 㗌 㗍 㗎 㗏 㗐 㗑 㗒 㗓 㗔 㗕 㗖 㗗 㗘 㗙 㗚 㗛 㗜 㗝 㗞 㗟 㗠 㗡 㗢 㗣 㗤 㗥 㗦 㗧 㗨 㗩 㗪 㗫 㗬 㗭 㗮 㗯 㗰 㗱 㗲 㗳 㗴 㗵 㗶 㗷 㗸 㗹 㗺 㗻 㗼 㗽 㗾 㗿 㘀 㘁 㘂 㘃 㘄 㘅 㘆 㘇 㘈 㘉 㘊 㘋 㘌 㘍 㘎 㘏 㘐 㘑 㘒 㘓 㘔 㘕 㘖 㘗 㘘 㘙 㘚 㘛 㘜 㘝 㘞 㘟 㘠 㘡 㘢 㘣 㘤 㘥 㘦 㘧 㘨 㘩 㘪 㘫 㘬 㘭 㘮 㘯 㘰 㘱 㘲 㘳 㘴 㘵 㘶 㘷 㘸 㘹 㘺 㘻 㘼 㘽 㘾 㘿 㙀 㙁 㙂 㙃 㙄 㙅 㙆 㙇 㙈 㙉 㙊 㙋 㙌 㙍 㙎 㙏 㙐 㙑 㙒 㙓 㙔 㙕 㙖 㙗 㙘 㙙 㙚 㙛 㙜 㙝 㙞 㙟 㙠 㙡 㙢 㙣 㙤 㙥 㙦 㙧 㙨 㙩 㙪 㙫 㙬 㙭 㙮 㙯 㙰 㙱 㙲 㙳 㙴 㙵 㙶 㙷 㙸 㙹 㙺 㙻 㙼 㙽 㙾 㙿 㚀 㚁 㚂 㚃 㚄 㚅 㚆 㚇 㚈 㚉 㚊 㚋 㚌 㚍 㚎 㚏 㚐 㚑 㚒 㚓 㚔 㚕 㚖 㚗 㚘 㚙 㚚 㚛 㚜 㚝 㚞 㚟 㚠 㚡 㚢 㚣 㚤 㚥 㚦 㚧 㚨 㚩 㚪 㚫 㚬 㚭 㚮 㚯 㚰 㚱 㚲 㚳 㚴 㚵 㚶 㚷 㚸 㚹 㚺 㚻 㚼 㚽 㚾 㚿 㜀 㜁 㜂 㜃 㜄 㜅 㜆 㜇 㜈 㜉 㜊 㜋 㜌 㜍 㜎 㜏 㜐 㜑 㜒 㜓 㜔 㜕 㜖 㜗 㜘 㜙 㜚 㜛 㜜 㜝 㜞 㜟 㜠 㜡 㜢 㜣 㜤 㜥 㜦 㜧 㜨 㜩 㜪 㜫 㜬 㜭 㜮 㜯 㜰 㜱 㜲 㜳 㜴 㜵 㜶 㜷 㜸 㜹 㜺 㜻 㜼 㜽 㜾 㜿 㝀 㝁 㝂 㝃 㝄 㝅 㝆 㝇 㝈 㝉 㝊 㝋 㝌 㝍 㝎 㝏 㝐 㝑 㝒 㝓 㝔 㝕 㝖 㝗 㝘 㝙 㝚 㝛 㝜 㝝 㝞 㝟 㝠 㝡 㝢 㝣 㝤 㝥 㝦 㝧 㝨 㝩 㝪 㝫 㝬 㝭 㝮 㝯 㝰 㝱 㝲 㝳 㝴 㝵 㝶 㝷 㝸 㝹 㝺 㝻 㝼 㝽 㝾 㝿 㞀 㞁 㞂 㞃 㞄 㞅 㞆 㞇 㞈 㞉 㞊 㞋 㞌 㞍 㞎 㞏 㞐 㞑 㞒 㞓 㞔 㞕 㞖 㞗 㞘 㞙 㞚 㞛 㞜 㞝 㞞 㞟 㞠 㞡 㞢 㞣 㞤 㞥 㞦 㞧 㞨 㞩 㞪 㞫 㞬 㞭 㞮 㞯 㞰 㞱 㞲 㞳 㞴 㞵 㞶 㞷 㞸 㞹 㞺 㞻 㞼 㞽 㞾 㞿 㟀 㟁 㟂 㟃 㟄 㟅 㟆 㟇 㟈 㟉 㟊 㟋 㟌 㟍 㟎 㟏 㟐 㟑 㟒 㟓 㟔 㟕 㟖 㟗 㟘 㟙 㟚 㟛 㟜 㟝 㟞 㟟 㟠 㟡 㟢 㟣 㟤 㟥 㟦 㟧 㟨 㟩 㟪 㟫 㟬 㟭 㟮 㟯 㟰 㟱 㟲 㟳 㟴 㟵 㟶 㟷 㟸 㟹 㟺 㟻 㟼 㟽 㟾 㟿 㠀 㠁 㠂 㠃 㠄 㠅 㠆 㠇 㠈 㠉 㠊 㠋 㠌 㠍 㠎 㠏 㠐 㠑 㠒 㠓 㠔 㠕 㠖 㠗 㠘 㠙 㠚 㠛 㠜 㠝 㠞 㠟 㠠 㠡 㠢 㠣 㠤 㠥 㠦 㠧 㠨 㠩 㠪 㠫 㠬 㠭 㠮 㠯 㠰 㠱 㠲 㠳 㠴 㠵 㠶 㠷 㠸 㠹 㠺 㠻 㠼 㠽 㠾 㠿 㡀 㡁 㡂 㡃 㡄 㡅 㡆 㡇 㡈 㡉 㡊 㡋 㡌 㡍 㡎 㡏 㡐 㡑 㡒 㡓 㡔 㡕 㡖 㡗 㡘 㡙 㡚 㡛 㡜 㡝 㡞 㡟 㡠 㡡 㡢 㡣 㡤 㡥 㡦 㡧 㡨 㡩 㡪 㡫 㡬 㡭 㡮 㡯 㡰 㡱 㡲 㡳 㡴 㡵 㡶 㡷 㡸 㡹 㡺 㡻 㡼 㡽 㡾 㡿 㢀 㢁 㢂 㢃 㢄 㢅 㢆 㢇 㢈 㢉 㢊 㢋 㢌 㢍 㢎 㢏 㢐 㢑 㢒 㢓 㢔 㢕 㢖 㢗 㢘 㢙 㢚 㢛 㢜 㢝 㢞 㢟 㢠 㢡 㢢 㢣 㢤 㢥 㢦 㢧 㢨 㢩 㢪 㢫 㢬 㢭 㢮 㢯 㢰 㢱 㢲 㢳 㢴 㢵 㢶 㢷 㢸 㢹 㢺 㢻 㢼 㢽 㢾 㢿 㣀 㣁 㣂 㣃 㣄 㣅 㣆 㣇 㣈 㣉 㣊 㣋 㣌 㣍 㣎 㣏 㣐 㣑 㣒 㣓 㣔 㣕 㣖 㣗 㣘 㣙 㣚 㣛 㣜 㣝 㣞 㣟 㣠 㣡 㣢 㣣 㣤 㣥 㣦 㣧 㣨 㣩 㣪 㣫 㣬 㣭 㣮 㣯 㣰 㣱 㣲 㣳 㣴 㣵 㣶 㣷 㣸 㣹 㣺 㣻 㣼 㣽 㣾 㣿 㤀 㤁 㤂 㤃 㤄 㤅 㤆 㤇 㤈 㤉 㤊 㤋 㤌 㤍 㤎 㤏 㤐 㤑 㤒 㤓 㤔 㤕 㤖 㤗 㤘 㤙 㤚 㤛 㤜 㤝 㤞 㤟 㤠 㤡 㤢 㤣 㤤 㤥 㤦 㤧 㤨 㤩 㤪 㤫 㤬 㤭 㤮 㤯 㤰 㤱 㤲 㤳 㤴 㤵 㤶 㤷 㤸 㤹 㤺 㤻 㤼 㤽 㤾 㤿 㥀 㥁 㥂 㥃 㥄 㥅 㥆 㥇 㥈 㥉 㥊 㥋 㥌 㥍 㥎 㥏 㥐 㥑 㥒 㥓 㥔 㥕 㥖 㥗 㥘 㥙 㥚 㥛 㥜 㥝 㥞 㥟 㥠 㥡 㥢 㥣 㥤 㥥 㥦 㥧 㥨 㥩 㥪 㥫 㥬 㥭 㥮 㥯 㥰 㥱 㥲 㥳 㥴 㥵 㥶 㥷 㥸 㥹 㥺 㥻 㥼 㥽 㥾 㥿 㦀 㦁 㦂 㦃 㦄 㦅 㦆 㦇 㦈 㦉 㦊 㦋 㦌 㦍 㦎 㦏 㦐 㦑 㦒 㦓 㦔 㦕 㦖 㦗 㦘 㦙 㦚 㦛 㦜 㦝 㦞 㦟 㦠 㦡 㦢 㦣 㦤 㦥 㦦 㦧 㦨 㦩 㦪 㦫 㦬 㦭 㦮 㦯 㦰 㦱 㦲 㦳 㦴 㦵 㦶 㦷 㦸 㦹 㦺 㦻 㦼 㦽 㦾 㦿 㧀 㧁 㧂 㧃 㧄 㧅 㧆 㧇 㧈 㧉 㧊 㧋 㧌 㧍 㧎 㧏 㧐 㧑 㧒 㧓 㧔 㧕 㧖 㧗 㧘 㧙 㧚 㧛 㧜 㧝 㧞 㧟 㧠 㧡 㧢 㧣 㧤 㧥 㧦 㧧 㧨 㧩 㧪 㧫 㧬 㧭 㧮 㧯 㧰 㧱 㧲 㧳 㧴 㧵 㧶 㧷 㧸 㧹 㧺 㧻 㧼 㧽 㧾 㧿 㨀 㨁 㨂 㨃 㨄 㨅 㨆 㨇 㨈 㨉 㨊 㨋 㨌 㨍 㨎 㨏 㨐 㨑 㨒 㨓 㨔 㨕 㨖 㨗 㨘 㨙 㨚 㨛 㨜 㨝 㨞 㨟 㨠 㨡 㨢 㨣 㨤 㨥 㨦 㨧 㨨 㨩 㨪 㨫 㨬 㨭 㨮 㨯 㨰 㨱 㨲 㨳 㨴 㨵 㨶 㨷 㨸 㨹 㨺 㨻 㨼 㨽 㨾 㨿 㩀 㩁 㩂 㩃 㩄 㩅 㩆 㩇 㩈 㩉 㩊 㩋 㩌 㩍 㩎 㩏 㩐 㩑 㩒 㩓 㩔 㩕 㩖 㩗 㩘 㩙 㩚 㩛 㩜 㩝 㩞 㩟 㩠 㩡 㩢 㩣 㩤 㩥 㩦 㩧 㩨 㩩 㩪 㩫 㩬 㩭 㩮 㩯 㩰 㩱 㩲 㩳 㩴 㩵 㩶 㩷 㩸 㩹 㩺 㩻 㩼 㩽 㩾 㩿 㪀 㪁 㪂 㪃 㪄 㪅 㪆 㪇 㪈 㪉 㪊 㪋 㪌 㪍 㪎 㪏 㪐 㪑 㪒 㪓 㪔 㪕 㪖 㪗 㪘 㪙 㪚 㪛 㪜 㪝 㪞 㪟 㪠 㪡 㪢 㪣 㪤 㪥 㪦 㪧 㪨 㪩 㪪 㪫 㪬 㪭 㪮 㪯 㪰 㪱 㪲 㪳 㪴 㪵 㪶 㪷 㪸 㪹 㪺 㪻 㪼 㪽 㪾 㪿 㫀 㫁 㫂 㫃 㫄 㫅 㫆 㫇 㫈 㫉 㫊 㫋 㫌 㫍 㫎 㫏 㫐 㫑 㫒 㫓 㫔 㫕 㫖 㫗 㫘 㫙 㫚 㫛 㫜 㫝 㫞 㫟 㫠 㫡 㫢 㫣 㫤 㫥 㫦 㫧 㫨 㫩 㫪 㫫 㫬 㫭 㫮 㫯 㫰 㫱 㫲 㫳 㫴 㫵 㫶 㫷 㫸 㫹 㫺 㫻 㫼 㫽 㫾 㫿 㬀 㬁 㬂 㬃 㬄 㬅 㬆 㬇 㬈 㬉 㬊 㬋 㬌 㬍 㬎 㬏 㬐 㬑 㬒 㬓 㬔 㬕 㬖 㬗 㬘 㬙 㬚 㬛 㬜 㬝 㬞 㬟 㬠 㬡 㬢 㬣 㬤 㬥 㬦 㬧 㬨 㬩 㬪 㬫 㬬 㬭 㬮 㬯 㬰 㬱 㬲 㬳 㬴 㬵 㬶 㬷 㬸 㬹 㬺 㬻 㬼 㬽 㬾 㬿 㭀 㭁 㭂 㭃 㭄 㭅 㭆 㭇 㭈 㭉 㭊 㭋 㭌 㭍 㭎 㭏 㭐 㭑 㭒 㭓 㭔 㭕 㭖 㭗 㭘 㭙 㭚 㭛 㭜 㭝 㭞 㭟 㭠 㭡 㭢 㭣 㭤 㭥 㭦 㭧 㭨 㭩 㭪 㭫 㭬 㭭 㭮 㭯 㭰 㭱 㭲 㭳 㭴 㭵 㭶 㭷 㭸 㭹 㭺 㭻 㭼 㭽 㭾 㭿 㮀 㮁 㮂 㮃 㮄 㮅 㮆 㮇 㮈 㮉 㮊 㮋 㮌 㮍 㮎 㮏 㮐 㮑 㮒 㮓 㮔 㮕 㮖 㮗 㮘 㮙 㮚 㮛 㮜 㮝 㮞 㮟 㮠 㮡 㮢 㮣 㮤 㮥 㮦 㮧 㮨 㮩 㮪 㮫 㮬 㮭 㮮 㮯 㮰 㮱 㮲 㮳 㮴 㮵 㮶 㮷 㮸 㮹 㮺 㮻 㮼 㮽 㮾 㮿 㯀 㯁 㯂 㯃 㯄 㯅 㯆 㯇 㯈 㯉 㯊 㯋 㯌 㯍 㯎 㯏 㯐 㯑 㯒 㯓 㯔 㯕 㯖 㯗 㯘 㯙 㯚 㯛 㯜 㯝 㯞 㯟 㯠 㯡 㯢 㯣 㯤 㯥 㯦 㯧 㯨 㯩 㯪 㯫 㯬 㯭 㯮 㯯 㯰 㯱 㯲 㯳 㯴 㯵 㯶 㯷 㯸 㯹 㯺 㯻 㯼 㯽 㯾 㯿 㰀 㰁 㰂 㰃 㰄 㰅 㰆 㰇 㰈 㰉 㰊 㰋 㰌 㰍 㰎 㰏 㰐 㰑 㰒 㰓 㰔 㰕 㰖 㰗 㰘 㰙 㰚 㰛 㰜 㰝 㰞 㰟 㰠 㰡 㰢 㰣 㰤 㰥 㰦 㰧 㰨 㰩 㰪 㰫 㰬 㰭 㰮 㰯 㰰 㰱 㰲 㰳 㰴 㰵 㰶 㰷 㰸 㰹 㰺 㰻 㰼 㰽 㰾 㰿 㱀 㱁 㱂 㱃 㱄 㱅 㱆 㱇 㱈 㱉 㱊 㱋 㱌 㱍 㱎 㱏 㱐 㱑 㱒 㱓 㱔 㱕 㱖 㱗 㱘 㱙 㱚 㱛 㱜 㱝 㱞 㱟 㱠 㱡 㱢 㱣 㱤 㱥 㱦 㱧 㱨 㱩 㱪 㱫 㱬 㱭 㱮 㱯 㱰 㱱 㱲 㱳 㱴 㱵 㱶 㱷 㱸 㱹 㱺 㱻 㱼 㱽 㱾 㱿 㲀 㲁 㲂 㲃 㲄 㲅 㲆 㲇 㲈 㲉 㲊 㲋 㲌 㲍 㲎 㲏 㲐 㲑 㲒 㲓 㲔 㲕 㲖 㲗 㲘 㲙 㲚 㲛 㲜 㲝 㲞 㲟 㲠 㲡 㲢 㲣 㲤 㲥 㲦 㲧 㲨 㲩 㲪 㲫 㲬 㲭 㲮 㲯 㲰 㲱 㲲 㲳 㲴 㲵 㲶 㲷 㲸 㲹 㲺 㲻 㲼 㲽 㲾 㲿 㳀 㳁 㳂 㳃 㳄 㳅 㳆 㳇 㳈 㳉 㳊 㳋 㳌 㳍 㳎 㳏 㳐 㳑 㳒 㳓 㳔 㳕 㳖 㳗 㳘 㳙 㳚 㳛 㳜 㳝 㳞 㳟 㳠 㳡 㳢 㳣 㳤 㳥 㳦 㳧 㳨 㳩 㳪 㳫 㳬 㳭 㳮 㳯 㳰 㳱 㳲 㳳 㳴 㳵 㳶 㳷 㳸 㳹 㳺 㳻 㳼 㳽 㳾 㳿 㴀 㴁 㴂 㴃 㴄 㴅 㴆 㴇 㴈 㴉 㴊 㴋 㴌 㴍 㴎 㴏 㴐 㴑 㴒 㴓 㴔 㴕 㴖 㴗 㴘 㴙 㴚 㴛 㴜 㴝 㴞 㴟 㴠 㴡 㴢 㴣 㴤 㴥 㴦 㴧 㴨 㴩 㴪 㴫 㴬 㴭 㴮 㴯 㴰 㴱 㴲 㴳 㴴 㴵 㴶 㴷 㴸 㴹 㴺 㴻 㴼 㴽 㴾 㴿 㵀 㵁 㵂 㵃 㵄 㵅 㵆 㵇 㵈 㵉 㵊 㵋 㵌 㵍 㵎 㵏 㵐 㵑 㵒 㵓 㵔 㵕 㵖 㵗 㵘 㵙 㵚 㵛 㵜 㵝 㵞 㵟 㵠 㵡 㵢 㵣 㵤 㵥 㵦 㵧 㵨 㵩 㵪 㵫 㵬 㵭 㵮 㵯 㵰 㵱 㵲 㵳 㵴 㵵 㵶 㵷 㵸 㵹 㵺 㵻 㵼 㵽 㵾 㵿 㶀 㶁 㶂 㶃 㶄 㶅 㶆 㶇 㶈 㶉 㶊 㶋 㶌 㶍 㶎 㶏 㶐 㶑 㶒 㶓 㶔 㶕 㶖 㶗 㶘 㶙 㶚 㶛 㶜 㶝 㶞 㶟 㶠 㶡 㶢 㶣 㶤 㶥 㶦 㶧 㶨 㶩 㶪 㶫 㶬 㶭 㶮 㶯 㶰 㶱 㶲 㶳 㶴 㶵 㶶 㶷 㶸 㶹 㶺 㶻 㶼 㶽 㶾 㶿 㷀 㷁 㷂 㷃 㷄 㷅 㷆 㷇 㷈 㷉 㷊 㷋 㷌 㷍 㷎 㷏 㷐 㷑 㷒 㷓 㷔 㷕 㷖 㷗 㷘 㷙 㷚 㷛 㷜 㷝 㷞 㷟 㷠 㷡 㷢 㷣 㷤 㷥 㷦 㷧 㷨 㷩 㷪 㷫 㷬 㷭 㷮 㷯 㷰 㷱 㷲 㷳 㷴 㷵 㷶 㷷 㷸 㷹 㷺 㷻 㷼 㷽 㷾 㷿 㸀 㸁 㸂 㸃 㸄 㸅 㸆 㸇 㸈 㸉 㸊 㸋 㸌 㸍 㸎 㸏 㸐 㸑 㸒 㸓 㸔 㸕 㸖 㸗 㸘 㸙 㸚 㸛 㸜 㸝 㸞 㸟 㸠 㸡 㸢 㸣 㸤 㸥 㸦 㸧 㸨 㸩 㸪 㸫 㸬 㸭 㸮 㸯 㸰 㸱 㸲 㸳 㸴 㸵 㸶 㸷 㸸 㸹 㸺 㸻 㸼 㸽 㸾 㸿 㹀 㹁 㹂 㹃 㹄 㹅 㹆 㹇 㹈 㹉 㹊 㹋 㹌 㹍 㹎 㹏 㹐 㹑 㹒 㹓 㹔 㹕 㹖 㹗 㹘 㹙 㹚 㹛 㹜 㹝 㹞 㹟 㹠 㹡 㹢 㹣 㹤 㹥 㹦 㹧 㹨 㹩 㹪 㹫 㹬 㹭 㹮 㹯 㹰 㹱 㹲 㹳 㹴 㹵 㹶 㹷 㹸 㹹 㹺 㹻 㹼 㹽 㹾 㹿 㺀 㺁 㺂 㺃 㺄 㺅 㺆 㺇 㺈 㺉 㺊 㺋 㺌 㺍 㺎 㺏 㺐 㺑 㺒 㺓 㺔 㺕 㺖 㺗 㺘 㺙 㺚 㺛 㺜 㺝 㺞 㺟 㺠 㺡 㺢 㺣 㺤 㺥 㺦 㺧 㺨 㺩 㺪 㺫 㺬 㺭 㺮 㺯 㺰 㺱 㺲 㺳 㺴 㺵 㺶 㺷 㺸 㺹 㺺 㺻 㺼 㺽 㺾 㺿 㻀 㻁 㻂 㻃 㻄 㻅 㻆 㻇 㻈 㻉 㻊 㻋 㻌 㻍 㻎 㻏 㻐 㻑 㻒 㻓 㻔 㻕 㻖 㻗 㻘 㻙 㻚 㻛 㻜 㻝 㻞 㻟 㻠 㻡 㻢 㻣 㻤 㻥 㻦 㻧 㻨 㻩 㻪 㻫 㻬 㻭 㻮 㻯 㻰 㻱 㻲 㻳 㻴 㻵 㻶 㻷 㻸 㻹 㻺 㻻 㻼 㻽 㻾 㻿 㼀 㼁 㼂 㼃 㼄 㼅 㼆 㼇 㼈 㼉 㼊 㼋 㼌 㼍 㼎 㼏 㼐 㼑 㼒 㼓 㼔 㼕 㼖 㼗 㼘 㼙 㼚 㼛

う事件も起きています。私の住む保護区前の高速道路だけでも去年2頭が轢かれてしまいました。

また、人間の生活するエリアへの接近は、人間社会が持つ病気への接触も意味しています。村にいる飼い犬や野良犬の持つ狂犬病や犬ジステンパー、パルボウイルスなどのウイルス性の病気が、野生のリカオンに感染してしまう可能性があるのです。

2015年には、私が活動している私営保護区のエリアに暮らす唯一のリカオンの群れに狂犬病の集団感染が発生しました。最初に子供たちが衰弱し、足元がおぼつかない様子が確認されました。数日後子供たちやメスの死体が次々と発見され、その後オスの死体も発見、1週間後には群れ全体が亡くなったことが確認されました。2016年にもクルーガー国立公園内で13頭の群れが大ジステンパーに集団感染し、感染が発見されてからたった48時間の間に全滅してしまったことがありました。

常に一緒に行動し、ご飯を分け合い、毛づくろいをし合うような絆の深いリカオンの群れの特性により、1頭感染すると群れが全滅してしまう可能性が高いといえます。すでに絶滅危惧種のリカオンにとって、こうして群れごと全滅し地域的に絶滅してしまうことは、リカオンの⑤遺伝的多様性にも大きく影響してきます。現在はワクチンプロジェクトが進み、私営保護区エリアのリカオンの多くに狂犬病や犬ジステンパーのワクチンが打たれています。また国立公園や私営保護区と隣接している地域住民の村の犬たちにもワクチンが打たれました。これらの保護活動のおかげで、現在では病気のリスクを格段に下げることが成功し

ています。

もう一つの問題はライオン同様、密猟者の仕掛ける罠です。広大なエリアを移動しながら生きているリカオンだからこそ、密猟者の罠にかかってしまう可能性も高くなってしまうのです。針金の罠が首や胴体、足などに引っかかり大きな傷を負ったリカオンが毎月のように目撃されています。

とある冬の日の朝、サファリ中にリカオンの群れに遭遇した際、そのうちの1頭に罠が引っかかっていることに気づいたことがありました。引っかかった際にもがいたからか、針金は首の周りにきつく巻き付き、深い切り傷を負っている様子が窺えました。私たちは急いでリカオン保護プロジェクトの責任者と獣医チームに連絡を入れ、応援を呼びました。幸い獣医さんがすぐに駆けつけてくれることになったので、私たちはそれまでこのリカオンたちを引き止めておかなくてはなりません。長距離をすばやく移動しながら暮らすリカオン、今のチャンスを逃してしまつては次いつまた遭遇できるかわからない——必死にリカオンたちの動きについていきましたが、結局最後の最後に見失つてしまい獣医さんは間に合わず……。その時は治療することができませんでした。しかしその1ヵ月半後、運よくこの怪我をしたリカオンがたまたま別の保護区で発見されました。この時は獣医さんも間に合い、無事に麻酔を打ち、罠の除去、傷口の縫合と消毒を行い、ワクチンも打つことができました。こうして実際に治療を施すことのできるリカオンはごく一部です。罠に引っかかってしまつていても、私たち人間が目撃することのないま

まのリカオンもたくさんいるでしょう。私たちの知る限りでも、過去5年間^{*}でクルーガー国立公園内のみで17頭、南アフリカの海岸沿いにあるクワズール・ナタール州では過去4年間に43頭の被害^{ひがい}が確認されています。南アフリカ全体で500頭ちよつとしかいないことを考えると、この針金の罠の深刻さ^{しんてく}が感じられるのではないのでしょうか。

現地では様々な保護活動が行われています。密猟者取り締まり隊はパトロールと罠の除去、獣医チームはリカオン保護プロジェクトと協力して罠に引っかかっている個体の治療、ワクチン接種などの活動を進めています。またGPSのついた装置をリカオンにつけることで彼らの動きをモニタリング^⑥しています。万が一罠に引っかかって移動が制限されていたり、保護区の外に出てしまっていたりしたら、GPSの動きからすぐに気づくことができます。

加えて、保護区近辺の家畜を持つ農家との連携^{れんけい}も図られています。家畜に番犬をつけたり、被害が出た際の補償^{ほしょう}制度を設けたり、リカオンについて正しく理解してもらえよう^{*}な啓発活動を行っています。遺伝的多様性を保つためにトランスロケーション^{*}（略）という保護活動も行われています。

費用も時間もかかるこうした保護活動を地道に行っているリカオン保護団体のおかげで、今の南アフリカのリカオン個体数はアフリカ全土で唯一増加傾向^{けいこう}にあるとされています。

〔 中略 〕

肉食動物たちは生態系を形作るとても重要な存在です。獲物となる動物の頭数を調節し、弱い個体や病気の個体を自然界から取り除いてくれます。そして、肉食動物の存在は（略）草食動物の移動範囲^{はうい}や行動にも、大きな影響を与えています。このようにして多種多様な動物たちの絶妙^{ぜつみょう}な共生関係が、植生をあるべき姿に保っているのです。

肉食動物への正しい理解を深めながら、今残された生態系を守ってみたいですね。

『14歳の世渡り術 私の職場はサバンナです！』

おた 太田ゆか（河出書房出版）

*リカオン：イヌ科の肉食動物

*執拗^{しつこく}に：しつこく

*保護区：絶滅するおそれのある野生動物を保護するために、狩猟や開発などを制限・禁止した地域

*瀕^{ひん}して：近づいて

*ファーム：農場

*クルーガー国立公園：南アフリカ共和国北東部にある国立公園

*クワズール・ナタール州：南アフリカ共和国東部にある州

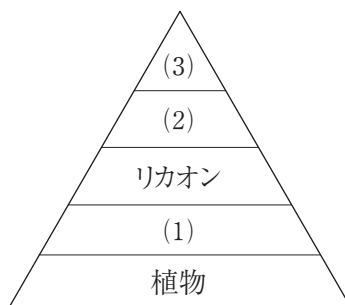
*啓発活動：人々が気づかないことを教える活動

*トランスロケーション：動物の引っ越し

問一 ― ①の具体的な説明にあたる文を本文中から探し、その初めの三字を答えなさい。

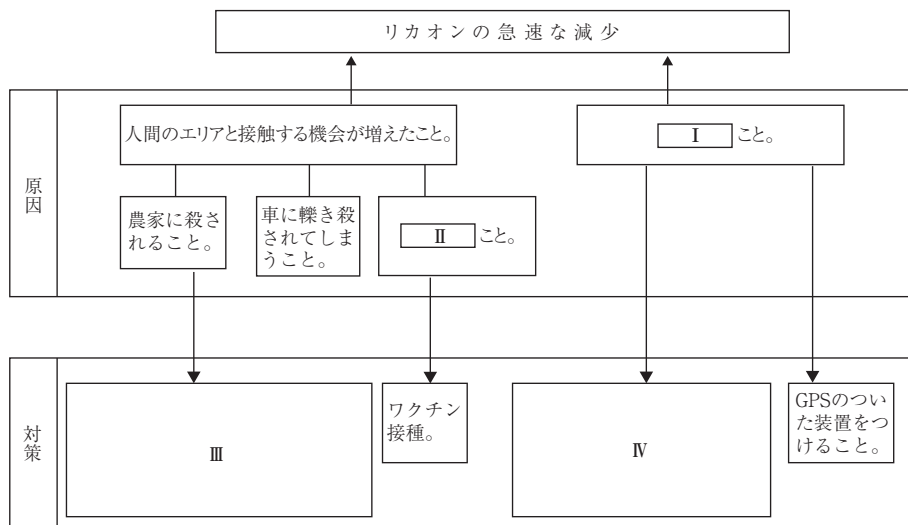
問二 ― ②について、本文の内容をふまえて、次の図の(1)(2)には当てはまるものをそれぞれ後よりすべて選び記号で答え、(3)には自分で考えた言葉を入れなさい。

ア インパラ
エヌー
イ ハイエナ
オ ライオン
ウ シマウマ



図：生態ピラミッド

問三 ― ③について、次の図は文章内で筆者があげている原因と対策をまとめたものです。後の問いに答えなさい。



(1) I、II にあてはまる内容を、「Iこと」に続くように本文中の言葉を使って書きなさい。ただし、I、IIとも二十字以内で答えること。

(2) 次のア～オは III、IV のいずれかに当てはまる対策です。III に当てはまるものをすべて選び、記号で答えなさい。

- ア 家畜に番犬をつけること。
- イ 罠に引つかかっている個体を治療すること。
- ウ リカオンについての啓発活動を行うこと。
- エ パトロールと罠の除去を行うこと。
- オ 被害が出た際の補償制度を設けること。

問四 ——— ④を言いかえた言葉を、本文中より五字でぬき出して答えなさい。

問五 ——— ⑤を説明したものとして最もよいものを次より選び、記号で答えなさい。

ア 遺伝的多様性が低くなることで、同じような特徴を持つ個体が増え、環境の変化や病気などに弱くなるため、種として生存に不利になる。

イ 遺伝的多様性が低くなることで、力が弱い個体や病気の個体が減り、他の動物との競争や病気に強いものが生き残るため、種として生存に有利になる。

ウ 遺伝的多様性が低くなることで、力が弱い個体や病気の個体が増え、助け合うことで群れとしての絆がより深まるため、種として生存に有利になる。

エ 遺伝的多様性が高くなることで、同じような特徴を持つ個体が減り、ウイルスに感染した群れが自然界から取り除かれるため、種として生存に有利になる。

オ 遺伝的多様性が高くなることで、同じような特徴を持つ個体が増え、環境の変化や病気などに柔軟に対応できなくなるため、種として生存に不利になる。

問六 ― ⑥とは、対象となる動物を、長期間続けて観察・記録する

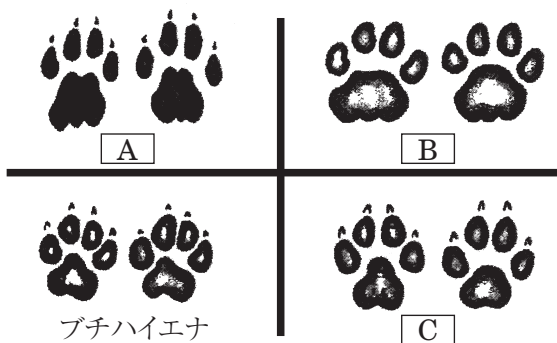
ことです。モニタリングをするためには動物そのものではなく、足跡をもとに動物の種類を判断する方法もあります。それについて説明した次の文を読んで、以下の問いに答えなさい。

では、ネコ科とイヌ科の足跡の違いから。一つ目は手のひらの部分、「掌球」の形です。イヌ科の掌球には下の部分に2つの丸い突出部、ネコ科には3つの丸い突出部があります。また、指先にある指球の間隔がネコ科の方がイヌ科より広がっています。二つ目は、ネコ科は爪を出し入れできるため、基本的にライオンやヒョウなどの足跡に爪痕は見られません。イヌ科やハイエナ科は爪の出し入れができないので、爪痕が見えることがほとんどです。速く走ることの特化したチーターも爪は出しっぱなし。地面を蹴る駆動力を最大限活かせるように、爪がスパイクのような役割を果たしているからです。ハイエナ科の特徴はそら豆型の指球、そして左右非対称な足跡です。似ているようで、よく見ると全然違いますね。

『14歳の世渡り術 私の職場はサバンナです!』

太田ゆか (河出書房出版)

(1) A、B、C はリカオン、ライオン、チーターの足跡です。リカオンの足跡を選び、記号で答えなさい。



(2) 足跡以外に、そこにいた動物の種類を読み取れるものには何がありますか。自分で考えて、一つ答えなさい。

問七 次に示すのは、本文の内容について三人の生徒が話し合っている様子です。これを読んで後の問いに答えなさい。

生徒A 肉食動物は強くてしぶといイメージがあるけど、リカオンのように絶滅しそうになっているものもあるんだね。

生徒B 百年前にくらべて今のアフリカ大陸のリカオンの数は約 Ⅰ にも減ってしまったものね。

生徒C でも肉食動物がいなくなると草食動物は獲物として狙われる危険がなくなるから、サバンナ全体の平和が保たれるんじゃない？

生徒A それは違うと思うよ。草食動物が増えすぎるとエサになる植物を食いつくしてしまったりと、植物にも良くない影響を与えるみたいだよ。

生徒C そうか。どの生き物たちにもそれぞれ大事な役割があつて、生態系の中で Ⅱ にあるんだね。

生徒B Ⅲ

(1) Ⅰ に当てはまる数字として適当なものを次より選び、記号で答えなさい。

- ア $\frac{1}{3}$ イ $\frac{1}{15}$ ウ $\frac{1}{30}$
エ $\frac{1}{75}$ オ $\frac{1}{125}$

(2) Ⅱ に当てはまる語を、本文中より漢字四字でぬき出しなさい。

(3) Ⅲ に当てはまる発言として最もよいものを次より選び、記号で答えなさい。

ア 人間は生態系を守っていくためにすべての動物にGPSをつけてモニタリングしないといけないね。

イ 人間の力で肉食動物や草食動物の数を調節していかないといけないね。

ウ 人間は自分たちの都合でその生態系のバランスをくずさないように、生き物たちへの理解を深めないといけないね。

エ 人間は生態系のバランスを崩さないようにするために、自然界とは関わらずに生活しなければならないね。

オ 人間は草食動物のために、エサとなる植物をたくさん植えていかないといけないね。

